



県立奄美高等学校

■在籍数 352人(2024年3月25日現在)

■校訓 自主創造の精神 友愛奉仕の態度
不撓不屈の根性

■学科

- ・機械電気科[定員80人] ・家政科[定員40人]
- ・商業科[定員40人] ・衛生看護科[定員40人]
- ・情報処理科[定員40人]



学校の特徴

本校は1917年6月に名瀬村立名瀬実科高等女学校として開校して以来、奄美高等女学校などの移管、大島実業高等学校、大島工業高等学校の独立・再編等を経て今年度、創立107年を迎えます。現在、5学科を有する大島学区における唯一の専門高校です。2024年度の生徒会スローガンは「百折不撓～夢が心にある限り 自分が信じた道へ～」です。新型コロナウイルスが23年度から5類に移行したことを受け、「今まで我慢してきたことに挑戦する」「自分の殻を破る」という意味が込められています。奄美高校生の誇りを持って自分自身の心と戦い、それぞれの道を切り拓いていく仲間を目指そうとの思いで決めました。生徒の一番のサポーターとなるように職員も一丸となって盛り上げていきます。本校へのさらなる理解と協力をよろしくお願いいたします。

今月は奄美高校の4人です



私は将来、整備士を目指しています。小学生の頃から、ものづくりや機械に触れることが大好きで、中学校の進路選択の際に、専門的な知識と技術を学びたいと奄美高校の機械電気科を志望しました。

中学生のときには、職場体験学習で自動車整備を経験しました。



奄美高等学校 2年 機械電気科

有吉 翔さん

整備士を目指して

ねじ締めをしつかりしておかないとボルトやねじの不具合で脱落し、コントロールを失って、事故につながる例があるということや、バッテリーが上がるとエンジンがかからない状態

整備士の仕事は、車体の点検や整備をはじめ、バッテリーの測定体験などを通じて学ぶことは、タイヤの

高校に入学してからは、日ごろの授業や実習での学びを生かして、各種検定や危険物取扱

外部講師の先生方からの出前授業などに積極的に取り組み、少しずつでも技術を身につけようという努力をします。また、将来に向けて必要な知識を習得するために、部活動にも入りました。

部活動では、自走ロボット(マイコンカー)を製作する上で必要な機械加工や電子工作・プログラミングを学んでいます。ロボット制御はとても難しいですが、県大会での上位入賞を目指していると、将来に向けて、整備士としての仕事を意識しながら努力し続けています。

鹿児島高等技術専門校入校式



3学科17人の若者が技術習得を目指す＝鹿児島市の同校

鹿児島市の鹿児島高等技術専門校(黒丸米行校長)で4日、2024年度期の入校式が行われた。この春から3学科17人の若き職人

仲間と共に未来へ

新入校生を含め、今年度は3学年6学科34人が技を磨く同校。黒丸校長は「自ら学び技術習得のほか、人間性も養ってほしい」と期待。同市職業訓練協会長の山元成巧氏(山元木工)も「周囲に信頼される職人を目指してほしい」と激励した。来賓からも励ましの言葉が多く寄せられた。入校生を代表して左官・タイル施工科の吉元隆泰さん(坂野工務店)は「仲間と共に、それぞれの目標に向かって励んでいく」と力強く語った。入校者は次の通り。鉄筋コンクリート施

新卒5人が入社

成長と活躍期待

プランテムタナカ (田中義郎社長)の2



写真に納まる田中社長(左から4人目)と新入社員5人＝鹿児島市の本社

024年度入社式が1日、鹿児島市の本社であった。新卒者5人が採用。それぞれ描く理想の社会人へ決意にじませる姿に成長と活躍を期待した。いずれも県内の高校を経

技術士第1次試験 累計28人が合格 業界関係者も応援

鹿児島高専

鹿児島工業高等専門学校は、都市環境デザイン工学科から技術士第1次試験の合格者を累計28人輩出した。この春に卒業式を迎えた旧5年生は7人が受か

り、前回の合格者と合わせて17人が通過。友と勉学に励んだ日々を糧に、新たな環境での活躍を誓った。日本技術士会が主催する試験。学問等の資格要件に制限はなく、基礎や適性など3科目を筆記形式で問う。20部門の中から一つを選ぶ専門科目では「建設部門」を選ぶ。

受験地が福岡市と遠方にある中、今回は渡辺組の渡辺丈社長からの寄付金を活用し貸切バスを手配。4年生対象の対策授業「工学演習」では、建設コンサル勤務のOBが教えるなど、受験に多数の業

- 工科 畠中峻(隆成)
- ▽左官・タイル施工科 吉元隆泰 有村友作(大平工業) 濱田零士(同) 岩田歩武(田畑工業) 江里口幸翼(同) 神田侃紀(同) 立山将吾(同) 祐福南海人
- (同) 川原紅葉(川建)
- 古河希吏人(異島住建)
- 松元終(日高工業) 吉永悠星(フラットエム)
- ▽木工科 田中稜(山口建築) 平運翔(同) 野間嶺(瀬戸木工) 本町皇世(同)



卒業した旧5年生は計17人が受かった＝霧島市の霧島市民会館

界関係者が支援した。合格者は専攻科が3人、5年生が7人、4年生が15人、3年生が3人。独学で勉強した3年生は過去最多数となったほか、全国の高専の中でもトップクラスの合格者数を維持した。惜しい結果となった学生は、次回の受験に向けて意欲を燃やしている。

2023年度試験統計によると、建設部門の合格率は36.7%(前年度比約4.5%減)だった。

技術士人材を一貫育成 IPDなど充実へ 文科省

文科省は、科学技術・学術審議会の技術士に関する特別委員会を開き、制度改革を見据えた検討事項を示した。

人材育成に向け、大学などの卒業後の初期専門能力開発(IPD)制度を整備・充実させる。資格取得後の継続

研さん(CPD)の仕組みとも連携させ、一貫した技術士人材の育成システムを構築する。今夏にも一定の結論を出すとしている。

IPDの整備をテーマとしたのは、技術士試験の受験者・合格者が高齢化しているためだ。大学等を卒業後、若手が実務に就きながら技術者として能力を高め、スムーズに資格を取得できる仕組みを整える。

て入社。式では役員等が見守る中、その代表として加藤光さん(加治木工業高校・機械科卒)が決意を表明、各者に対して辞令交付も行われた。

期待と不安が入り交じる5人へ「一つの仕事を任せられるようになるには達成感が生まれ、楽しさにつながる」と言葉を送った田中社長。「失敗も次につなげて、壁にぶつかっても逃げずに乗り越えてほしい」と激励した。